
西の恋

尖角

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

西の恋

【Nコード】

N5094V

【作者名】

尖角

【あらすじ】

西村唯香という名の主人公は、自分でも恋をしたことを気づいていなかった。
そんな恋のお話。。。

中学に入ってから、2回目の転校。

季節は夏で、学年は3年。

私は父親の転勤の関係で学校巡りをしていた。

友達は全然出来ないし、学校の雰囲気慣れることも出来ない。

私はそんな毎日の中でいじめにあっていた。

「にいゝしいゝむうゝらあゝさん」

また始まった、いつもの言葉攻^ぜめ。

私はこの3人がとても嫌いだ。

私が少し勉強が出来るから、、、

ただそれだけで言いがかりを付ける。

そんな3人が私は嫌いだ。

そんなことを思っていた時だった。

「なあ？転校生いじめて楽しい？？」

つと学校一強い男ひとの子が、声をかけてきたのは…。

「俺さあ…」

「お前等見たいな奴キライなんだよねえ」

「なんつーの？」

「虫酸が走る？」

「まあ、そんな感じだからさ…」

「ここから立ち去るか、俺になぶり殺しにされるか決めてくんない？。」

「ごめんね？ 秀君…」

「ほら！行こ！！」

つと、私をいじめていた人達のリーダー的存在の人が言う。

噂によると、リーダーである栗崎水塑くりさきみなほは、最強と謳われる神田秀也かんだしゅうが好きらしい…。

だから、もめるのではなく、逃げることを選んだのだろう。

私は神田君に守られた。

しかし、これが初めてではない。

私はこれまでに、もう一度助けられたことがある。

それは、登校初日だった。

私は登校初日で、事務室がわからなかったので、その辺にいた女の子たちのグループに尋ねた。

「あの…事務室ってどこですか？」

すると彼女たちは、ケンカ口調で私に返してきたのである。

「はあ？」

「何お前？」

「ウザいんですけど？」

私はここで止まってしまった。

返す言葉がなかったのである。

すると、そこを通りかかった彼、、

神田君は、「お前転校生？」と私に聞いてきた。

私は、それに対し、「そうです」と答える。

そうして、彼女たち、、

ウザいんですけど集団ともめるのを避けてくれた…。

…。

彼は助けるとか、そんなおこがましい事は考えていないのだろう

しかし、私が助かったことは事実。

そして今回も助かった…。

私は、彼に聞いた。

「なんで、、」

「なんで私を助けるの？」

すると、彼は言ったのである。

「助けるのに理由があるのか？」

「それに、俺は助けたわけじゃない」

「気に入らないことに口を出したただけだ」

「それが結果的に“助ける”という形になっただけ…」

「俺はいろんな意味で恐れられているからな…」

「少し話ただけで、人は逃げていく…」

「便利だろ？嫌いな奴を追い払うには…」

私は言葉が出てこなかった…。

彼は良い事を言っている。

そんなことはわかっている。

けれど、そんな彼の姿が、私の目には悲しく映った。

だからかな…？

「あなた、無理している…」

っと、私はお節介なことを言ってしまった。

するとである、、、

「うるせえ!!!!」

「お前にかんけーねえーだろ？」

「俺が無理している？」

「そうだったらなんだって言うんだよ？」

彼が言うのは、もつともなことであつた。

しかし、私は余計にお節介？を焼くのである。

「あなたのことが好きだから…」

「私はあなたのことが好きだから…」

自分でさえ知らなかった本当の気持ち…。

私は、それを本人に向かって言ってしまった。

その後、彼は言った。

「ああ、そうかあ、、、」

「俺も同じだ」

「嘘!!」

「あなたが？」

「ああ、、、、」

そうやって始まった、

最強と最弱の恋の始まり、、、、

私はこの生活に満足している。

(後書き)

主人公の本名が出てきてないですね…。
ちなみに、本名は、西村唯香です…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5094v/>

西の恋

2011年10月9日03時05分発行